

ベルリン自由大学・筑波大学交流会 ～永田学長を迎えて～

筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 4 年次

(現：ベルリン自由大学交換留学生)

和田 桃乃

【概要】

ベルリン自由大学・筑波大学
交流会

とき：2016 年 6 月 27 日 (月)
19:00 ～

ところ：Osteria Caruso
(Köthener 38, 10693 Berlin)



【全体的所感】

現在、私は筑波大学からの交換留学生として 2016 年 3 月からベルリン自由大学（以下、FU）に 1 年間在籍しているが、留学先としてこのドイツ・ベルリンを選んだ理由のひとつとして、今回のような交流会（交流コミュニティ）の存在がある。これについては留学前に筑波大学ボンオフィス所長相澤先生やドイツ留学の経験がある先輩方から事前のご紹介を受けており、留学中の現在も有意義な時間と貴重なチャンスをいただいている。今日の交流会はベルリン自由大学・筑波大学間の交換留学を担当されている相澤先生を中心に、ベルリン自由大学へ現在留学中の筑波大生、筑波大学への留学経験がある（現役・OBOG の）FU 生、これから筑波大学へ留学予定の FU 生など、筑波大学・ベルリン自由大学双方にゆかりのある学生・先生方などが集まった。また、途中からは永田恭介学長・Benton Caroline Fern 副学長はじめ筑波大学の重鎮の先生方もテーゲル空港から直接足を運んでくださり、改めて自分自身の留学や大学生活について見つめ直す大変貴重な機会となった。

【永田恭介学長との会話】

① ドイツ及びベルリンについて

学長ご自身がロマンチック街道（ドイツ中部～南部にかけて存在する古城街道）をバスで縦断した経験をお話してくださった。また、ライプツィヒやドレスデンなどドイツ東部の魅力についてもお話しくださった。ドイツ東部は経済的に強いフランクフルトやミュンヘンを擁する中部・南部に対し「劣っている」というイメージを個人的に抱いていたのだが、ドイツの歴史を支える東部の都市の貢献について再認識する必要があると改めて感じた。

②世界各国の筑波交流会について

外国へ足を運ぶ度に、その地域・国の筑波交流会に参加するようにしているとのこと。上海・台湾・ホーチミンなどその数は右肩上がりに増えており、世界各地に筑波の輪が広がっている。その中でも特にこのベルリンの同窓会は、筑波大学の「バウムクーヘンの会」と連携し、非常に大きく個々人同士の絆が深いコミュニティであり、世界各国の筑波交流会の中でも先進的であると感じて



おられた。このように学長からお褒めの言葉をいただけるのは、まず何よりも同窓会長であるマリア・パステウホワさんと相澤先生の地道な呼びかけや努力の賜物であると思う。また、F U・筑波大学双方からの積極的な参加の積み重ねも今日の活発な交流を支えているのではないだろうか。大学在学中（留学中）だけでなく、卒業・帰国後も継続的に参加している方が多いことから、この交流会の絆の深さがうかがえる。

次回の筑波グローバルサイエンスウィークでは、マリアさんが来日して同窓会・交流会の活動を発表するとのこと。このような機会だけにとどまらず、マリアさんのような留学・卒業後も筑波大学の国際交流に尽力くださる存在に、我々はもっとスポットライトを当て、広く内外部に発信していく必要があると強く感じる。

③筑波大学卒業生の活躍について

現在世界各国の様々な現場で筑波大学の卒業生が活躍していることについてお話くださった。JICAやANAでは数十人単位で筑波大学の卒業生が第一線で働いているという。また、今回学長一行がベルリンへ飛行機で向かう際、フランクフルトの空港で出迎え・見送りを担当した方も卒業生であったと仰っていた。このほかにも、アフリカでの国際会議に出向いたときなど、世界各国で筑波大学の卒業生に出会ったとのこと。今回の交流会のように、筑波大学在籍中に留学など海外で活動する学生や教員に会う



ことに加え、卒業後海外の社会で活躍する卒業生に声をかけられることはこの上ない喜びと仰っていた。特に、私の在籍する国際総合学類からは卒業後海外で働く（日本で国際的事象について取り組む）人が多く、今後も期待しているとのことをお言葉をいただいた。私もその期待に沿えるよう、より一層気を引き締めて留学生活を送りたいと感じた。

④国際総合学類をはじめとした筑波大学における国際交流について

筑波大学に所属する一人として海外で生活する今どのようなことを考えているのか、そして帰国後はどうするのか、というご質問をいただいた。私の所属する国際総合学類では学生の3分の1～半分が1年間の留学を経験し、筑波大学には計5年間の在学となる場合が多いという事実をお答えしたが、これについては永田学長もご存じであった。帰国後はすぐに就職活動となる予定だとお話ししたところ、国際総合学類の学生の社会での多様な活躍ぶりについてお話いただき、ぜひ頑張ってくださいと激励の言葉をいただいた。今回の私の留学も筑波大学が国立大学としてFUと協定を結んでいるからこそ実現したものであり、筑波大学における国際交流・学術協定締結の代表者としての自覚を持って行動していくことを改めて固く誓った。筑波大学の協定校の多さは、学生が海外の大学に挑戦するうえでこの上なく背中を押してくれる要因であると強く感じる。永田学長によると、現在は250以上の大学と提携があるという。協定締結の最前線で活動しておられる永田学長のお話をお伺いして、大学側が開拓して下さる可能性を学生側が最大限に活かすことができているか、自分自身はその好事例となっているか、改めて考えていかなければならないと思う。また、協定校の拡大は筑波大学への留学生の拡大も意味しており、筑波大学に関わる全ての学生に関わる問題であるということについても再認識した。

⑤これからの大学生活・人生について

筑波大学は創立から40年強とまだ若い大学であり、今も全員が開拓者という状態。だからこそ、これをチャンスととらえ、筑波大学の歴史の先頭に立っているという気持ちを忘れずにこれからも頑張ってもらいたい、と激励の言葉をいただいた。私からは、筑波大学史上「初めての何か」をやり遂げた人物になれるようこれからも努力します、とお返事させていただいた。自分自身が筑波大学の「初めて」になるという考え方はこれからの大学生活やその後の人生においても重要なキーワードになると思う。

